

数 専 会 だ よ り

発行人 東京女子大学同窓会数専会会長 松本友子

〒167-0041 東京都杉並区善福寺 2-23-11

Tel. 03-3395-4448 Fax. 03-3395-0084

<http://www.geocities.jp/twcumath/index.html>

【総会報告】

日時 平成25年6月8日(土)

於 72年館1階ラウンジ

次第

1部 総会議事

1. 会長挨拶
2. 各部活動報告
3. 2012年度 決算報告
4. 会計監査報告
5. 終身会費について
6. 2013年度 予算案
7. 夏季研修会について
8. 研究部講座報告
9. 新常任幹事について
10. 同窓会より

2部 二胡の演奏会

岩本薫美子氏(88日文)とピアニスト梅村百合氏による二胡の演奏会

1部 総会議事

2. 各部活動報告 (6ページ参照)
3. 決算報告 (6ページ参照)
4. 会計監査報告 (6ページ参照)
5. 終身会費について
今まで3000円であった終身会費を1000円にすることが可決された。
6. 予算案 (6ページ参照)
7. 夏季研修会について
東京女子大学72年館1階ラウンジにて開催されました(2ページ参照)。
8. 研究部講座報告
各講座の代表者より講座の内容、会費等が紹介されました。
現在の研究部講座は、7ページ参照。

9. 新常任幹事について

◎印の幹事が新しく推薦され、総会で選出、承認されました。

会長、副会長、常任幹事は次のとおり。

会長	松本 友子 (73)
副会長	小畑 葉子 (69)
	大井美智子 (74)
庶務	武田 紀子 (70)
厚生	鍋田 茂子 (79)
研究	大井美智子 (74)
	廣瀬加代子 (74)
	◎平井 真理 (74)
広報	中陳きよみ (70)
	渡辺 信子 (75)
	◎洞山 直美 (78)
会計	青柳 陽子 (76)
	可兒 恵子 (76)
書記	岩崎えり子 (78)
HP担当	◎渡邊 朋子 (78)
会計監査	吉益美恵子 (67)
	大島 治美 (77)

10. 同窓会より

平素パソコン講師の派遣をはじめ格別の御協力を賜り厚く御礼申し上げます。外装工事、ガラス飛散防止フィルム貼付、備品転倒防止金具取り付け等の72年館の工事を行いました。皆様の母校への深い思いに支えられ創立100周年のための企画10/10から柏木恵子講座「家族の心理学」が始まります。来春3/15には俳句黒田杏子講演会もあります。森英恵カーフ、バッグも是非どうぞ!



2部 二胡の演奏会

プログラム

- ♪ 夜来香
- ♪ 蘇州夜曲
- ♪ 賽馬
- ♪ 女人花
- ♪ 黒鍵のエチュード(ピアノソロ)
- ♪ 慕情
- ♪ サウンドオブミュージックメドレー
- ♪ 世界にひとつだけの花
- ♪ 涙そうそう
- ♪ 情熱大陸
- ♪ 川の流れるように

岩本薫美子氏は上海音楽学院民族楽器科王永徳氏に師事。講師として指導を行うかたわら様々なコンサート活動も積極的に行い、日本における二胡の普及に努めている。3.11以降は都内で福島からの避難者を招待してチャリティコンサートを開催する一方、石巻や宮古などの被災地へも精力的に赴き、支援活動を行っている。



【ごあいさつ】

会長 松本 友子 (73)

日頃は数専会の活動にご理解、ご協力を賜り心より感謝いたします。

数専会の開催する勉強会、講演会には、それぞれ多くの同窓生に参加いただき、賑やかな場となっています。

数専会のように、ひとつの学科で様々な世代の卒業生が集まり、交流できる場を持っているところは、なかなかないようです。皆様に羨ましがられる会です。諸先輩方の豊かなご経験や知識から、また若い方々の新しい発想やバイタリティーから、いつもたくさんの刺激をいただいています。

新たな出会いや発見を提供してくれるこの貴重なつながりが、より実り豊かな場となるよう、幹事一同、工夫を重ねて参りたいと思います。

今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

【秋の講演会のご案内】

日時 平成25年11月16日(土) 午後1時半～3時半

場所 72年館2階集会室

講師 岡部恒治氏

埼玉大学経済学部名誉教授

日本数学協会副会長

パナソニックセンター、リソーピアの数学部門監修

演題 『遊びから入る数学その2』

会費 1000円

お申し込み・お問い合わせ

Tel

E-mail

小畑 葉子

準備の都合上、必ずご連絡ください。

【夏季研修会】

日時 平成25年7月27日(土)
 於 東京女子大学72年館1階ラウンジ
 *講演要旨(3ページ)
 *夏季研修会の感想を下記に掲載



講師紹介

◇石井志保子氏
 1973年東京女子大学文理学部数理学科卒業、その後早稲田大学大学院修士課程、東京都立大学大学院博士課程をへて九州大学助手、東京工業大学助手、同助教授、同教授、現在東京大学大学院数理科学研究科教授。理学博士
 この間 Max-Planck 研究所研究員, Hamburg 大学客員教授, 2008年より日本学術会議会員. 1995年猿橋賞, 2011年日本数学会代数学賞受賞. 著書:「特異点入門」丸善出版

プログラム

◇11時半～13時
 昼食・懇親会

◇13時半～15時
 『のぞいてみよう数の不思議
 のぞいてみよう数学者の世界』
 まず整数や有理数のように無限にあるものの個数を考えます。整数全体の個数と有理数全体の個数は違うのでしょうか。当然有理数の方が多いと思いませんか？本当でしょうか。
 また、数学者は何をしているのか、なぜ日本では女性の数学者が極端に少ないのか、を考えます。
 東京大学大学院数理科学研究科教授
 石井志保子氏

【夏季研修会に参加して】

やっぱり数学は面白い！

野田 夏子(院93)

夏期研修会に出かけるその朝、少しドキドキしていた。石井先生のお話がさっぱりわからなかったらどうしよう？何しろ、真面目に数学の話聞くのは卒業以来、云十年ぶりなのだ。ちなみにソフトウェアに関わる仕事をしているが、その中で直接数学が必要とされることはあまりない。

さて、同窓会館に到着すると、まずは石井先生を囲んでの昼食会だ。ここで幸運にも先生とご一緒のテーブルにさせていただいた私は、その朝のドキドキをしばし忘れてしまった。先生はともお美しく、お召し物も素敵で、お話が始まる前にもお姿に惹き付けられてしまった。先生の同級生の方からは「まるで女優さんみたいじゃない」とのお声もかかる。まさにその通り。その先生と同じテーブルであるから、不安のドキドキは別のドキドキに変わってしまった。しかしそのドキドキも束の間のこと、先生と同級生の皆さんの賑やかな会話に圧倒され、そして先輩方の昔話を楽しく聞かせていただくこととなった。

美味しい昼食と楽しいお話ですっかり気分がほぐれたところで、石井先生のご講演が始まった。ご講演は2部構成で、まずは「のぞいてみよう数の不思議」というお話である。スライドに示されたたくさんのリンゴとみかん、さてどちらが多いでしょう？という問いかけから始まった。リンゴとみかんの個数を比較するには、リンゴとみかんを1対1に対応させていって、対応付くなら個数は同じということになる。そうそう、習った気がする。そして次に、自然数と偶数はどっちが多い？という問いに続く。1対1対応があれば個数は同じなのだから、自然数と偶数は同じ個数だろう、と私は予想。めでたく正解。この辺りまでは良かったが、自然数と有理数はどっちが多い？となると、ちょっと怪しくなってくる。あれ、どう対応付けようか。習ったことを忘れている、かつ頭が固くなっている。分母と分子をそれぞれ行と列にする表を作れば、いずれの有理数もその表のどこかに存在し、その表内の数

を一行に並べることができるから、やはり自然数と同じ個数になるそう。さらに進んで、では実数と自然数の個数は同じか？これは背理法を使うことによって、個数が同じでないことが証明できることを丁寧に教えていただいた。先生の説明はとてもわかりやすく、またスライドもいろいろな工夫がされていて(本当は楽しい音まで出るしかけになっていたそうだが、それは再現されず残念)、数の不思議に魅了されてあっという間に前半が終了した。

後半は、「のぞいてみよう数学者の世界」というお話で、日本の女性数学者の割合や、数学者の日常、そして石井先生のこれまでの歩みなどを聞かせていただいた。日本では女性の理工系研究者や技術者が少ないことは知っていたが、女性数学者の割合が2.6%とは予想をはるかに下回る数字だ。世間では、女性は理数系に向かないという思い込みがまだ強いらしい。それが単なる思い込みでしかないことは、我ら数専会のメンバー、さらには現役の数理の学生を見ればわかることである。この世間の思い込みの打破のためにも、石井先生のご活躍は心強い。石井先生がいかにして今日の石井先生になられたかは、お知り合いの本職の漫画家さんの手による楽しいマンガでお話くださった。ポスト探しや子育てとの両立など、いろいろなご苦労をされながら、でも数学の研究をいつも楽しんで進まれてきた様子がよくわかった。それにしても、高校生の時にローレンツ変換に出会って感激した、という辺り、やはり偉大な先生は凡人とは違う。

その朝の不安はどこへやら、数の不思議に魅了され、石井先生の歩みに感動し勇気づけられているうちに、あっという間にご講演は終わってしまった。石井先生のご専門の特異点理論などは到底理解できないものの、それでもやっぱり数学は面白い！そのことに改めて気付かせてくださった石井先生、そしてこのご講演を企画してくださった数専会の皆様、本当にありがとうございました。ちなみに、アレフゼロ(自然数の個数)とアレフ(実数の個数)の間に別の無限があるかは未だに謎だそう。この猛暑の日々、ふとそれについて考えていたりするこの頃である。

のぞいてみよう数の不思議 のぞいてみよう数学者の世界

(石井志保子先生ご寄稿による夏季研修会講演要旨)

のぞいてみよう数の不思議

1,2,3,4...などの自然数と2,4,6,8...などの偶数を比べると、どちらがたくさんあるのでしょうか。偶数はすべて自然数だけど、逆は成立しません。自然数の中には3,5..などの奇数があるので自然数は偶数とは限らないのです。では自然数の方が偶数よりたくさんあるのでしょうか？ いいえ、実は偶数全体の個数と自然数全体の個数は同じなのです。全ての偶数は $2n$ (n は自然数) というかたちで表されますから $2n$ に n を対応させると偶数全体の集合と自然数全体の集合が1対1に対応づけられます。ということは自然数全体と偶数全体が同じ個数だということです。このように A という集合と B という集合が同じ個数の元を持っているということは、 A と B の間に1対1の対応があるということです。逆に1対1の対応がなければ A と B の個数が違うということです。

それでは、自然数と有理数(分数で表される数)はどちらがたくさんあるでしょう。これも一見有理数の方が自然数より多いような気がしますが、じつは同じ数なのです。これは有理数が全て現れる表を使って証明されます。

それでは、自然数と実数はどちらがたくさんあるでしょう。これも一見実数の方が自然数より多いような気がしますが、そのようなことにだまされてはいけないということは上記の議論で学びました。でもこれは実は実数の方が自然数より多い、というのが正解なのです。講演では対角線論法を使って、背理法での証明を紹介しました。

自然数の個数も実数の個数も無限なのですが、無限にも違いがあるということを学びました。この2つの無限の間に別の無限があるのかどうか、実はまだ分かっていません。現代数学の難問なのです。皆さんも考えてみませんか？

のぞいてみよう数学者の世界

日本では数学の教授の中で女性の割合はわずか1~2%、他の国に比べて極端に少ないのが現状です。なぜこうなのかを考えてみましょう。女性は数学が苦手という思い込みが大人にある。Role model がない。数学科を出た後のキャリアパスを知っている進学指導者が高校にはあまりいない。などが原因にあげられます。少しずつでも変えていかなければなりません。

数学の楽しみ、石井の数学への道のり、石井の共同研究者などを、写真を交えて紹介しました。

【出会った仕事は捨てない】

高橋尚子 (80)

國學院大學経済学部教授／ナウハウス(有)代表／
(般財)テクニカルコミュニケーター協会専務理事

今でこそ「大学で情報を教えてます」と、主な仕事を一言で語れるようになりました。これまで、さまざまな仕事に出会い、その仕事を一つも捨てていません。したがって、正式には、教員だけでなく、会社経営者、テクニカルライター、専務理事でもあります。では、ここまで出会ってきた仕事を紹介しましょう。

◆女子大で雑誌ライターデビュー

大学2年冬、電算室でオペレーターとプログラム相談のバイトをしていた私に、非常勤の小林光夫先生(当時、電気通信大学助教授)から「マイコンを組み立てて、雑誌に原稿を書いてみない？」と声をかけられました。何を考えて受けたのか全く覚えていません。しかし、マイコンの組み立てより、プログラムを作るより、原稿を書くことが至難の技。国語の作文とも、レポートとも違う、知らない人が読む雑誌の原稿です。はじめての原稿は、編集者に真赤にされ、何度も書き直しました。今のように、PCもなければ、ワープロもありません。ひたすら、原稿用紙に鉛筆を走らせた。それが、ライターとしての始まりです。雑誌は『ASCII』のライバル『RAM』といいます。

◆女性SE第1期生、いきなりマネージメント

大学4年夏、富士通が女性SEを100人採用すると発表しました。それまで大型汎用コンピュータのシステム開発は、机上での仕様書作成とプログラミングが中心でした。プログラムのコンパイル・実行やデバッグは、昼夜問わず割り当てられた時間帯にコンピュータを使用しなくてははいけません。それが、TSS(時分割処理)端末を導入したことで、昼間にプログラミングやデバッグができるようになりました。そこで女性SEを採用するというのです。

卒業後、女性は事務職か工員、まだ差別感が残る製造業富士通へ。強面の先輩SEには「男と同じなんだろう」と言われ、出張、協力会社や客先への常駐など何でもやりました。2年目には、新人研修のTSS端末の実習補助、配属された後輩女性SEの教育係となりました。それが、マネージメントの始まりです。

入社して4年目、学生時代のマイコン組み立てを手伝ってくれた電通大の友人から「アスキーに遊びに来ない？」と誘われました。当時のベンチャー企業アスキーに入社した友人は、男ばかりの会社に女性を増やす画策をしていたのです。いつしか新人教育の講師を依頼され、ついでに「うちに来れば…」とスカウトされました。

◆初のビジネスパソコンスクールでインストラクター

アスキーに転職して入った部署は、塚本慶一郎副社長(現インプレス最高相談役)直下の企画部門でした。技術者として入社したつもりが、イベントを企画した

り、PCの新しい使い方を考えたり、これまでの経験が全く活かさない日々でした。転職は間違っていたのかと思っていたとき、営業部門から「ビジネスパソコンスクールをつくるので手伝ってほしい」と言われました。理由は簡単、大企業の人を相手に教育するのでビジネスマナーができていない人にインストラクターをしてほしい、というものでした。それまでのパソコンスクールは、プログラミングを教えていたので、受講生は技術者が中心でした。それを会社員向けに、ワープロや表計算を教えるとしたからです。

◆コンサルティング会社でブックライター

3年ほどして、私をアスキーにスカウトしたメンバーの一人と結婚しました。小さな会社で同じところにいるのも何だからと思い、ビジネスパソコンスクールに講師を派遣してくれていた、システムコンサルティング会社に転籍しました。そこでも同じく、インストラクターをしながら、アスキーで出版する本を執筆しました。はじめて、自分の名前が本に載る、ついにブックライターの仲間入りです。

◆独立してテクニカルライター

やがて時代はバブル。富士通時代にお世話になった協力会社の社長から「女性だけでマニュアルの制作会社を設立するソフトウェアハウスがあるけどやらない？」とまたもやお誘いです。ちょっと変わったことをするのもいいかも、と独立しました。しかし、バブル絶頂期に設立したため、親会社のソフトウェア販売は伸び悩み、マニュアル制作もDTPへの転換期で設備投資が必要、あっという間に赤字。社長だった女性は関係会社の男性と不倫、数名いた女性社員は入社拒否の後、退職。後片付けと2冊目の書籍だけが残りしました。

◆ひとりになって大学講師から専任教員

いよいよひとり。私をスカウトした社長に「責任とって」とせまり、休眠していた会社をもらいました。それまでのツテでマニュアル制作を続け、雑誌原稿や書籍を何冊も執筆しました。その社長もバブル崩壊のあおりで自分の会社を縮小。私は職場を自宅に移し、外部との接触が少なくなると思い、マニュアル制作の業界団体に参加することにしました。

そこに、学生時代の雑誌でお世話になった人から「大学でExcel教える人を探しているけどやらない？」とお誘いです。11年間非常勤講師を続け、8年前に「専任で来てくれない？」と最後のお誘い、今につながります。

◆最後に

私の仕事人生をもっとドラマチックに語ったウェブサイトがあります。後輩のドキュメンタリーライターが、インタビューを基に書いてくれました。「東京女子大学 女性研究者支援室 インタビュー Vol.1」ぜひ、こちらをご覧ください。

⇒ <http://www.sowr.jp/interview/>

2013 年度勉強会案内

ゼミ	テキスト	日時(注)	場所	会費/月	世話人
高村多賀子ゼミ (51)	数学の流れ30講(中) (志賀浩二著 朝倉書店)	第3火曜日 10:20~12:20	72年館	2500円	早川希尹子 (67)
高校数学					
茶園幸子ゼミ (69)	4STEP 数学Ⅲ+C (数研出版)	第2,4木曜日 午前	武蔵野公会堂	2500円 程度	渡辺信子(75)
横浜教室 吉田萌子(48)	4STEP 数学Ⅲ問題集 (数研出版)	第2,4木曜日 午前	ミュージア川崎研修室 (JR川崎駅前)	1000円 程度/回	国俊征子(66) 益山恵子(69)
吉祥寺ゼミ	クリアー数学演習 I・II, A・B 受験編 (数研出版)	月2回金曜日 午前	武蔵野商工会議所	1000円	富樫照子(62) 大井美智子 (74)
パソコン					
Myパソコン 戸塚三重子(66)	プリント	第1,3水曜日 午前	72年館	3000円	山田洋子(66)
プラムパソコン 荒木純子(75)	プリント	第1,3木曜日 午前	72年館	2500円 程度	高林厚子(61)
シニアパソコン 矢矧かつ子(51)	エクセル フォトショップ	第1,3火曜日 午前	72年館	6000円	古川旗江(53)
パズル講座 荒木純子(75)	プリント	第2金曜日 午前	72年館	3000円	荒木祐子(77)
多面体 荒木純子(75)	正多面体を解く (一松信著)	第4木曜日 13:30~15:30	72年館	500円	菊島永子(85)

(注)午前:10:00~12:00

【研究部より】

今年度の夏季研修会は、7月27日(土)同窓会館で開催され、暑い中、多くの方にお集まりいただきました。今回は、東京大学大学院数理科学研究科教授・石井志保子(73)先生に「のぞいてみよう数の不思議・のぞいてみよう数学者の世界」と題し講演いただきました。数理学科の大先輩である先生のお話を伺おうと、在学生や若い方々も参加くださいました。大変わかりやすく、興味深いお話を伺うことができました。

今後の研修会について、ご意見、ご要望がありましたら、研究部までお知らせください。これからも、たくさんの方に参加いただける研修会を、企画していきたいと思っております。

研究部 連絡先

大井美智子(74)

廣瀬加代子(74)

平井 真理(74)

大学院に進学して感じたこと

小林 由香 (13)

私は今年、東京女子大学数理科学科を卒業して東京女子大学大学院理学研究科に進学しました。現在大学院では荻田先生の元で数値解析を学んでいます。

大学院に入ってまず学んだ事は、兎にも角にも数学が必要不可欠であるということでした。理学研究科数学専攻なのでそれは当然の事なのですが、学部時代に私が主に履修していた科目のほとんどはプログラミングやネットワークなどの情報系、自然科学系だったので、数学に関しては大学院に入ってほとんど1からやり直して、今でもまだ知らない基本的な事が山のようにある状態です。そのため、初めのうちは情報や自然科学に偏って数学の講義をあまり履修しなかったことを後悔していました。しかし、大学院の講義を受けているうちに、それぞれの分野がどこかしらで繋がっているのではないかと気付いた途端、数学以外の講義で学んだ事のひとつひとつが決して無駄ではなかったと思えるようになりました。

例えば、シミュレーションをするのに必要なプログラミングといえば情報系というイメージですが、モデル自体は微分方程式などで表わされ、これは数学ですし、例えばそのモデルがロトカ・ボルテラモデル(捕食被捕食に関するモデル)などであれば自然科学分野の扱うテーマでもあります。その他にも化学反応など、数学—情報—自然科学は多くの場面で繋がっていて、学部生の時にはこれらの分野の繋がりとはいくはあまり目を向けることはなかったのですが、自分の中で分野の垣根を取り払ってみると、これまで苦手だとばかり思っていたものもだんだん面白

く感じられるようになってきました。このような学部の四年間の間に見えてこなかった事が見えてくる楽しさを今実感する事が出来て、進学して良かったと思っています。

また、学業面以外では、これまで周りにいなかったような人たちとの交流やテーブルトーク等のイベントを通して、様々なものの見方や考え方やライフパスなどに触れることができました。

東京女子大学には女性研究者のための研究支援員制度があり、私は大学院に入学してから健康運動科学の先生の元でこの支援員として活動しています。その繋がりでも、今年5月に大学院生のための運動不足解消のためのGボール講習会&交流会を女性研究者支援室と企画し、色々な世代、また様々な専門の院生、そして女性研究者の方との意見の交換を行ったり、大学院生活や研究に関するアドバイスを頂きました。こういった経験が出来るのはおそらく女子大ならではの、自分が多くの人に支えられ、そしてとても恵まれた環境にいるのだということを実感することが出来ました。

大学入学当初は哲学と数学だけは絶対に専攻しないだろうと思っていたにもかかわらず、今こうして数学専攻の院生となってみて、人生は何が起こるか分からないものだとつくづく感じています。なんとなく大学受験をしたまま受かった東京女子大学に入った結果、良い環境、良き友人、そして良き先生方に恵まれ、学業面でも充実した日々を過ごす事ができて、これまで自分の歩んできた道に後悔はなかったと言い切れる事はとても幸せなことです。支えてくれている多くの人に感謝し、これからも日々精進していきたいと思っています。

(東京女子大学大学院理学研究科1年)

いま、福島で

松田京子 (70)

東日本大震災から、二年四ヶ月が過ぎ、少しずつ生活が戻りつつあります。

私が住んでいる郡山市は、原発から、約 60 キロ離れた福島県のほぼ中央に位置し、原発事故で、避難している人達も多く暮らしているところです。小、中学校の校庭の除染、子供達の室内遊び場確保、震災で壊れた建物の改修、撤去が進み、現在は、市内住宅地の除染が進められています。

我が家は、今年 4 月末に、市の除染を受けました。その前に、植木の除染カット、自宅改修時に、屋根、雨樋、外壁などできるところは除染しました。市の除染は庭の表土の入れ替えが主で、除去土壌は自宅で管理せねばならず、保管スペースの確保が大変でした。深さ 1.3m、3m×6m の穴に、何年保管することになるのか、とても気がかりです。空間線量は、高いところで 0.96 μ Sv/h から

0.33 μ Sv/h、低いところで 0.35 μ Sv/h から 0.21 μ Sv/h に下がりました。それでも計算上の年間被曝量は 1mSv を超えます。また、6 月には、私が保健所でホールボディカウンターの検査を受け、一年間日常的に摂取することにより受けると思われる線量は、1mSv 未満で「問題ない」という結果でした。でも我が家の庭の柚子も、「微量」ながら、放射性セシウム 134、セシウム 137 が検出されています。原発事故がなければ、なかったのですから、考えてしまいます。本当に大丈夫？

亡き姑の実家のあった石巻市を訪ねた時、全て流されてしまう津波の恐ろしさは、想像をはるかに超えるものでした。実際にみてみないとわからないものですね。私達の生活も、いろいろ変わりました。今まで、何気なくしてきたことも、一歩立ち止まって考えてまいります。子育て中の家族は、本

当にいろいろ悩み、その家族にあった答えを出すのが、大変だったと思います。息子家族は昨年 4 月に、福島市から仙台市に転居しました。公園でのびのび走りまわる孫達の姿を見て、ホッとしたのを覚えています。息子は新幹線、車を乗り継いで福島に通勤し、頑張っています。

福島は、避難指示区域で、帰りたい人も帰れない人、帰れるなら帰りたい人もいますし、放射能に対する不安を持ちながら生活している人、心配してもしようがないと全く気にしない人など、複雑で、難しいです。

除染、中間貯蔵施設建設、増え続ける汚染水、燃料棒取り出しなどなど、本当の意味でフクシマ原発が収束し、放射線量を気にせず、自然を楽しみながら、安心、安全に福島で過ごせる日が早く来るよう、祈っています。

園遊会のバザーに参加して 内海香織 (78)

例年通り 4 月 29 日に園遊会が盛大に開催され、今年は私達昭和 53 年卒業生が 10 余名集まり、微力ながらお手伝い致しました。

午後の短時間のみでしたが、数専会お揃いのエプロンをすると気分はすっかり売り子です。商品スペースに限りがあるため次々と補充していると、毎年いらして心得ていらっしゃるのか、「3 回目なの、新しい物が出てるかなと思って」とおっしゃるベテランさんや、お知り合いを見かけたからとご一緒して下さる方と、次々と途切れなくお客様もお寄り下さって私達にとっても楽しいひとときでした。

懐かしい顔が集まるきっかけを作って下さった数専会にも感謝しながら帰路につきました。

血液検査値の見方(秋の講演会より)

日時 平成 24 年 12 月 8 日 (土)
於 東京女子大学同窓会 72 年館
講師 渡辺清明氏

(慶応義塾大学医学部名誉教授)

「血液検査値の見方を学ぼう」というテーマで、血液検査値から健康上の意味や関係する病気についてのお話を伺いました。

参加者は自分の検査データを見ながら、健康を維持するにはどのような注意をすればよいかを学びました。

